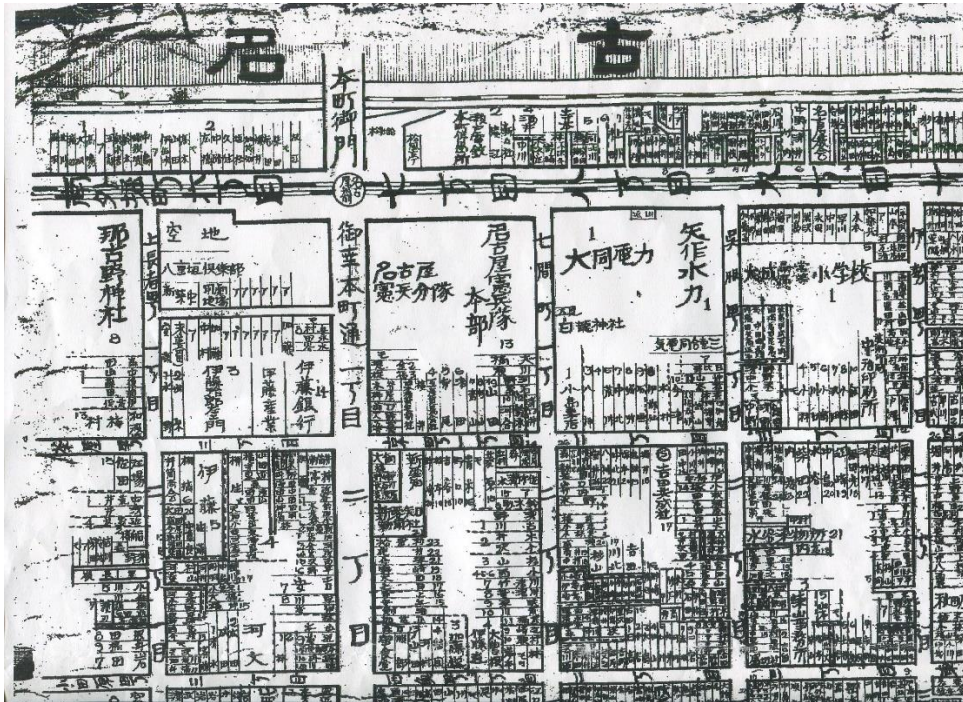


幕末明治の写真師列伝 第三百三十八回 宮下欽 その五十六

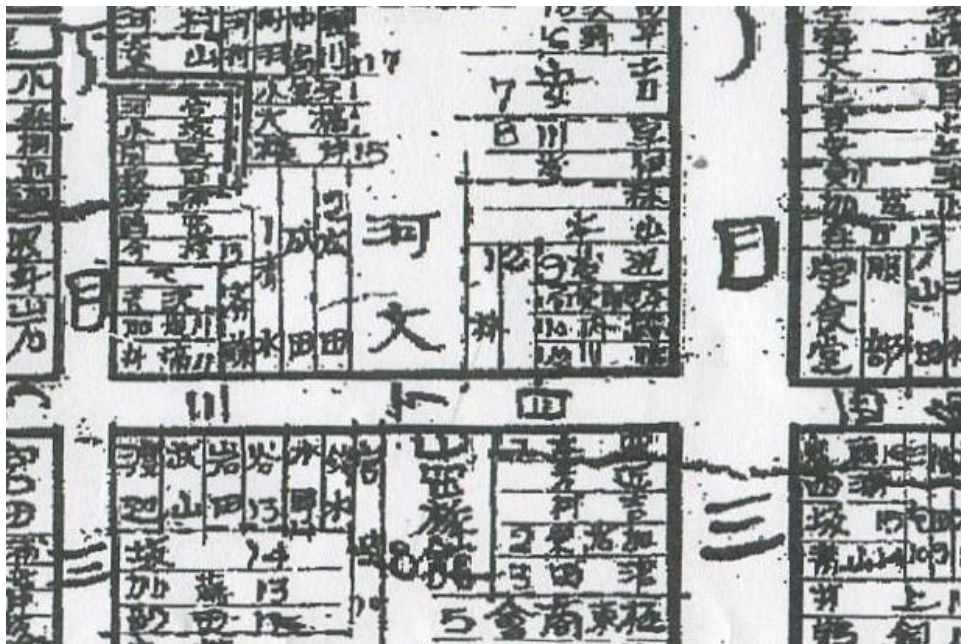
今回紹介する守谷耕策編纂『名古屋市中央部営業案内血地圖』（三共社、明治42年）は、名古屋市の鶴舞図書館で、その地図を複写することができるが、これは、明倫会有志編『名古屋碁盤割り一商家と庶民の暮らし』（明倫会・伊藤宗太郎発行、平成11年）に掲載されている配置図1~10でも同じ地図が確認できる。それをよく見てみると、「昭和四年一月調」とあることから、少なくとも昭和4年（1929）までは同じ御幸通沿いの本町二丁目に宮下写真館があったことが確認できる。（御幸通り二丁目の「8 川早」（早川鉄砲店（株））の南隣（すぐ下）に宮下写真館はあった。）

明倫会は、大正時代から昭和二十一年にかけて名古屋市明倫尋常小学校を卒業した元学童たちとその恩師たちが集う同窓会で、年に一度、集会を開き、旧交を温めたり、その昔の思い出を語り合う会で、名古屋の碁盤割りの戦前の様子や、暮らしぶりを後世の名古屋市の歴史資料として残そうとしていた会で、その有志達が書き残した文集と、当時の古い地図を一緒にして、『名古屋碁盤割り一商家と庶民の暮らし』に掲載されている。

（森重和雄）



昭和4年頃の名古屋住宅地図部分



守谷耕策編纂『名古屋市中央部営業案内血地圖』（三共社、明治42年）より部分